

目次

目次

目次	3
まえがき	7
第 1 章：基本的な疑問	9
1.1 地球外知的生命体は地球に到達しているのか？	9
1.2 1947 年のロズウェル事件後、アメリカ政府とエイリアンの 間で密約が結ばれたが、その内容は？	9
1.3 宇宙人からの技術移転はないのか？	9
1.4 宇宙人は善か悪か？	10
1.5 誰が異星人の地球来訪を隠しているのか？ 異星人と話し 合い、密約を結んだ当事者は誰なのか？	10
1.6 シミュレーション仮説との整合性	11
1.7 宇宙人の存在をいつ公開するのか？	11
1.8 情報公開を迫っている当事者	11
1.9 なぜ UFO の存在を公開しない（できないのか？）	12
1.10 これまで隠匿してきたにもかかわらず、アメリカ国防省 が UFO を捉えた映像を数点公開したのはなぜか？	12
1.11 宇宙人（グレイタイプ）と地球人が非常に似ている理由	12
1.12 宇宙で生命および知的生命体が発生する確率	13
1.13 古代遺跡から UFO が発掘された？	13
1.14 国家と異星人	13
1.15 核兵器への興味	13
第 2 章：ロズウェル事件	14
2.1 なぜ事件前から UFO の目撃が多くなったのか？	14
2.2 墜落原因	14

目次

2.3 米国政府が隠匿を続ける理由	14
第3章：エイリアンインタビュー：第509爆撃航空群所属の空軍看護婦 Matilda O'Donnell MacElroy の記録	15
3.1 宇宙人のインタビュー回答	15
3.2 何を意味するのか？	19
3.3 不気味な一致	20
3.4 胡散臭いところ	21
3.5 技術について	24
3.5.1 宇宙船について	24
3.5.2 人工身体（ドールボディ）について	24
3.6 インテリジェント・デザインについて	25
3.7 いつ宇宙人の存在を人類に明かすつもりなのか？	29
3.8 マチルダと面談し、圧力をかけた上層部	29
3.9 結末	30
3.10 信ぴょう性：70点	30
3.11 私の妄想	31
第4章：惑星セルポへの秘密の旅	32
4.1 ホロマン空軍基地への来訪	32
4.2 胡散臭いところ	32
4.3 ゼータレクチル星系異星人の来訪スケジュール	33
4.4 レーガン大統領へのブリーフィング記録	34
第5章：ロズウェル事件の物語間の違い	46
第6章：内部告発者	54
6.1 ボブ・ラザー	54
6.2 Luis Elizondo, former director of the Advanced Aerospace Threat Identification Program (AATIP)*	55
6.3 KARL E. NELL 大佐	58
6.4 リチャード・M・ドーラン	59
第7章：そして我はアルカディアに在り	62
7.1 アルカディア	62

目次

7.2 レンヌ・ル・シャトー	63
7.3 カタリ派、輪廻転生.....	64
7.4 超能力	64
7.5 宇宙人の言語	65
7.6 宇宙人のテクノロジー	67
7.7 類人猿から知的な人類への遺伝的な改変.....	68
第8章：大統領と UFO の関係.....	69
第9章：ロズウェル事件以外の UFO 目撃談	71
9.1 1561年、ニュルンベルグで UFO 同士の戦闘	71
9.2 ルルドの泉	71
9.3 ファティマの奇跡	72
9.4 1933年6月13日、イタリア北部ロンバルディアに墜落した UFO	72
9.5 1965年、ヴァレンソール事件.....	74
第10章：米国政府が開示または漏洩した UFO 文書.....	75
10.1 1947年、トワイニングメモ	75
10.2 ロズウェル事件で生存した宇宙人エアルの尋問記録 (1947年7月9日～約3週間)	79
10.3 1949年、FBIメモ	81
10.4 1951年、USAF (米空軍) 諜報レポート	82
10.5 1952年、チャドウェルメモ	84
10.6 1954年、マクスウェル空軍基地緊急レポート.....	86
10.7 1966年、マイノット空軍基地への侵入	88
10.8 1967年、マルムストローム空軍基地.....	90
10.9 1975年、ワートスミス空軍基地.....	92
10.10 1976年、テヘラン上空での遭遇.....	94
10.11 1980年、レンデルシャムの森事件とホルト文書	96
10.12 1988年、米国沿岸警備隊の報告	98
10.13 1989-1990年、ベルギー上空を飛行する UFO	100
10.14 ウィルソン提督メモ (別名ウィルソン/デイビスメモ)	

目次

.....	103
10.14.1 ウィルソン提督について	103
10.14.2 ウィルソン提督メモの内容	104
10.14.3 ウィルソン提督メモの出处	104
10.14.4 発見時期	104
10.14.5 ウィルソン提督メモの重要性	105
第 11 章：ウィルソン提督メモ	106
11.1 全文翻訳	106
11.2 エリック・デイビス博士	132
11.3 オースティン高等研究所	134
第 12 章：UFO 研究と超能力研究の類似性	136
第 13 章：なぜ UFO の存在は 秘密にされているのだろうか？	137
13.1 秘密を守らせる方法	137
13.2 Sean Cahill* の意見	138
13.3 Luis Elizondo の意見	138
13.4 私の予想は逆だ	139
第 14 章：宇宙人の正体	141
仮説 1：アルカディア仮説	141
仮説 2：古代の宇宙人仮説	142
仮説 3：エイリアンインタビューの内容が真実説	142
仮説 4：人類の先祖または未来人のタイムトラベル仮説	142
仮説 5：人間と異星人のハイブリッド仮説	142
仮説 6：複数種類の異星人が来訪説	142
仮説 7：冷戦時代におこなわれた米国による偽情報仮説	142
参考文献	143

まえがき

バブル期の 1980 年代末期ごろ、矢追純一木曜スペシャルやプレステージといった番組で頻繁に UFO を取り上げた番組が放送されていました。その当時の論調も、大槻教授に始まる「UFO なんているわけない、馬鹿じゃないか？」とか「米国政府が UFO についてリークしているが、それは冷戦時の兵器開発計画を隠すためにソ連に嘘の情報を流しているのだ」とか、「やっぱり異星人が地球に来ているんだ」の 3 派に分かれていたと思います。大抵の人は「UFO はいない派」で、「UFO はいる派」でも、どうせ自分たちの日常生活に影響はしないだろうと思っている人がほとんどでしょう。

その後は MJ12、キャトルミューティレーション、誘拐&インプラント、ミステリーサークル、エリア 51&ボブ・ラザーあたりが話題になり、時代はバブル崩壊。景気も悪くなり、UFO 番組も少なくなり、私も大人になり、UFO なんてまともに存在していると考えなくなりました。その後はしばらく UFO についての大きな話題を聞くことはありませんでした。

ところが、2020 年代になると、数十年ぶりに UFO に関する真面目な議論が行われるようになり、米国下院で歴史的な UFO 公聴会が開かれ、元情報局員や元米軍パイロットたちが一斉に UFO を目撃したと内部告発したり、国防総省自体も UFO の映像を公開し、地球の物体ではあり得ない動きをしている「UAP」（未確認空中現象）の存在を認めました。これらの情報は現在は Web や Youtube で誰もが簡単に確認できます。

結局のところ、「エイリアンは地球に来ている」、「UFO なんていない」、「米国政府による偽情報」の 3 派に分かれています。米国大統領にさえ秘密にされている人類最高の機密に平凡な一人の

まえがき

日本人がアクセスできることなど不可能ですが、公開された情報を元に、状況証拠を集め、そこから判断することにしました。

インターネットが普及し、誰でもリークされた機密情報と呼ばれるものにアクセスすることができるようになりました。膨大な UFO 情報が流布され、その内容や、登場人物を 1 つずつ判断していくと、「存在もしていない UFO とエイリアン」のために、これだけ膨大で、もっともらしい文書を米国政府および米軍が作成する意味がないと思います。つまり、これからこの本を書く著者の立場は、「エイリアンおよび UFO はすでに地球にやってくる」が何らかの理由で「米国政府内の一部のグループ」に隠蔽されているという考えです。「エイリアンおよび UFO はすでに地球にやってくるかどうか」については議論せず、主に状況証拠であるリークされた文書や噂を集め、「UFO および異星人の性質」、「隠匿されている理由」、「UFO とバチカンと神の関係」、「異星人による人類への介入の可能性」を推理小説のように解き明かすのが本書の目的です。

基本的には本書で紹介している『エイリアンインタビュー』、「ウィルソン提督メモ」、「内部告発者の発言」を読めば、通常理解力が備わっている方ならば、UFO の存在を認めざるを得ません。問題はその後です。なぜ UFO が隠蔽されているのか、その本質と神との関係については結論までは至っていません。しかし、その候補は数個まで絞られています。そこからは読者であるあなた自身が答えを探す番です。